

毎日小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞社
 東京本社(東京都千代田区一ツ橋1-1-1) 電話(03)213-0521
 〒100-51 大阪本社(大阪市北区鶴野町4-5-1) 電話(06)345-1551
 〒550-51 西宮本社(北九州市小倉北区柳町13-1) 電話(093)541-2131
 中尾本社(名古屋市中央区名取4-7-35) 電話(052)581-2211
 北海道支社(札幌市中央区北条西6-1) 電話(011)221-4411
 〒060

定価 1400円(税別)

開明書苑

小中学生の書写に筆運びが軽くてきています

開明墨汁本社
開明株式会社

本社
 埼玉県浦和市原山2-22-20
 大阪市北区中津1-15-17

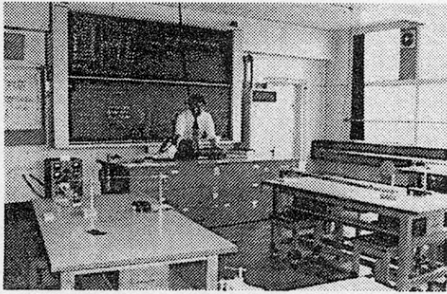
生きる力

21世紀に向けて教育改革策を検討している中央教育審議会が、打ち出した言葉。何のために勉強するのか、それをトコトノつきつめると、これだという。「末は博士か大臣か」を知っている人はもう少ない。戦前の勉強の目標だった。えらくなつて人の上に立つ、つまり「立身出世」を夢見てがんばった。今はどうだろうか。この言葉は消えたが、代わってテ



トで高い点を取り、「いい学校」に行つて「いい会社」に、という目標にふり回されていないだろうか。中教審は「生きる力」で、そんなせせこましいことを超えようという。では、それはどんな「力」か。「自分で考え、自分で決め、人への思いやりと美しい物に感動する心」という。そこには「1つの正解」はない。一人ひとりが「自分の答え」を見つける。それが「個性を伸ばす」という意味だ。

みんなの学校の理科室と同じ。でも、美術展の会場です



美術展を開催

東京・港区小
赤坂旧

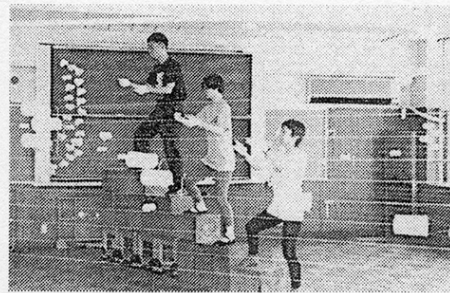
理科室をのぞいてみましょう。この部屋での展示は、パウル・ピカソの「メロウゼン」さんの作品「機械的音響効果の一事業風景」。人が近づくとセンサーの働きで教室内に置かれた機械がモーターで傾き、機械に張った弦の上をビームがころがって音を出します。さらにその音にアンプが反応してスピーカーから音が出ます。なんともふしぎな空間ですが、教壇の

学び、遊んだ思い出とともに

ワカメなどを使った「生物ラジオ」、教室の床面にたくさんの小さな紙の旗を立て、微妙な空気の動きでひらひらと動く作品などが、各教室で展示されています。

音楽室そのものが楽器です。張りめぐらされた糸をはじめて演奏します

4年前に廃校になった校舎を会場にした展示。旧赤坂小では、一會「日本・オランダ現代美術交流展」が開かれています。



音楽室は水嶋一江さんの「ストリングラフイ」。糸電話のように両端に紙コップを取り付けた糸を教室中に張りめぐらせた演奏システムです。このほか、キュウリや

校舎たってリサイクル

<上>

東京の都心では、児童数の減少などのため、統合される小学校がたくさんあります。その校舎はどうなってしまうのでしょうか。ほかの学校の改築中の仮校舎としてたり、体育館やグラウンドを一般開放したりいろいろです。校舎の持ち味を生かした再利用の工夫も試みられています。港区での例を報告します。

上に置いてあるアンプを先生、九つの実験用テーブルをそれぞれ児童に見立てているそうです。

この美術展は、港区の区政五十周年記念事業の一つとして、区が

から作品の鑑賞ができ、会場を提供しました。赤坂小は廃校後、二年間は仮校舎として利用され、その後は消防署の仮出張所として使われていました。今回の美術展は特別で、これからの活用方法は検討中だそうです。